

①災害時の行動の流れ

②日頃の注意事項

③緊急地震速報を受信したら

④大規模地震が発生したら

⑤揺れが収まったら

安全が確認されたら避難場所へ

⑥避難場所マップ

落ち着いたら保護者等へ安否報告

⑦保護者等への連絡方法

⑧帰宅の判断

⑨大学に安否報告

⑩本人情報

②日頃の注意事項

- 避難経路や避難場所を確認する。(大学及び自宅)
- 消火器、屋内消火栓の設置場所や使用方法を確認する。
- 避難経路や火気設備器具周辺に荷物を置かない。
- 災害時の家族や大学との連絡方法を決めておく。
- 帰宅ルート及び所要時間を確認しておく。
- 防災訓練に積極的に参加する。

このマニュアルは本学HP(「非常時への対応」に掲載)からプリントアウトできるので、ご家族にも事前にお伝え下さい。
(<https://www.u-gakugei.ac.jp/emergency/>)

災害時等において、本学HPが断続的に閲覧できなくなった場合には、臨時公式HPや東京学芸大学公式Xを利用して重要な情報を発信します。

- 臨時公式HP
(<https://sites.google.com/site/gakugeiweb/>)
- 東京学芸大学公式X
(<https://twitter.com/TokyoGakugei>)

緊急時の大学への連絡先
042-329-7138 (正門守衛所)

③緊急地震速報を受信したら

- 窓や棚、ガラスなど割れたり中ものが飛び出しそうなものから離れる。
- ドアを開け、出入口を確保する。
- 「上から落ちてこない、横から倒れてこない」安全な場所に身を寄せる。
- 火を使用していた場合にはすばやく火を消す。

④大規模地震が発生したら

【自身の安全を守ることを第一に考えること】

- あわてて戸外に飛び出さない。
- 窓や棚、ガラスなど割れたり中ものが飛び出しそうなものから離れ、「上から落ちてこない、横から倒れてこない」安全な場所に身を寄せ、揺れが収まるまで様子を見る。
- 屋外では、建物から離れ、落下物や倒壊物の危険のない安全な場所にしゃがんで揺れが収まるまで様子を見る。



災害に備える

学生用

このマニュアルは、大規模地震等の災害が発生した場合の対応として、学生のみなさんが日頃注意すること、災害時にどのような行動をとればよいかをまとめたものです。

【改訂 2024年4月】

⑤揺れが収まったら

- 余震が発生することもあるので、引き続き建物や器物の崩落、倒壊に気をつける。
- 火を使用していた場合には火を消す。(ガスの元栓を閉じ、電気器具のスイッチを切る)
- なるべく一人では行動せず、複数で行動する。
- 余震が収まり、安全に移動することができると判断した場合は、授業担当教員や教職員の誘導に従い、避難場所(大学においては総合グラウンド(⑥のマップ参照))に避難する。
- 避難場所にいる教職員に自分が避難したことを伝える。

◆移動・避難するときの注意

- ・ハンカチ、タオル、衣服の袖等で口を覆い、煙や埃を吸わないようにする。
- ・手荷物や衣類で頭部を保護する。
- ・エレベーターは使用せず、階段を使用する。

⑦保護者等への連絡方法

NTT災害用伝言ダイヤル(伝言を録音・再生)
地震など大災害発生時に、電話が繋がりにくい状況になった場合、提供されるサービス。
※事前に家族同士で使用方法等について確認しておきましょう。毎月1日及び15日に体験利用ができます。

■利用方法(171をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生を行って下さい)

<主な流れ>

171 ※電話を掛けるとガイダンスが流れます。

- 伝言を録音する場合<1>
 - 自宅の電話番号などを登録(市外局番から入力)
○○○-○○○-○○○○
 - 録音の開始<1#>
- 伝言を再生する場合<2>
 - 相手の登録した電話番号を入力(市外局番から入力)
○○○-○○○-○○○○
 - 再生の開始<1#>

※利用可能な端末 加入電話、公衆電話、携帯電話等(詳細はNTTのHPで確認して下さい。)
※登録できる電話番号は災害によりかかりにくくなっている地域の電話番号となります。
※171をダイヤルし、災害用伝言ダイヤルに接続された後、一部の通信機器では、その後に「1」や「2」のPB信号を送出するため特別な操作(「#」等のボタン操作)をする必要があります。

携帯各社の災害用伝言板(伝言を文字で残す)

地震などの大災害発生時に、携帯電話から文字で伝言を残し、安否情報を登録・確認できるサービス。
※事前に家族同士で使用方法等について確認しておきましょう。

■災害用伝言板へのアクセス方法

○携帯各社のサイトトップ画面に開設される、「災害用伝言板」に入る。
※登録されたメッセージは、携帯電話のほか、インターネットを通じてPCなどから確認することができます。
※下記のアドレスを打ち込む方法により、「災害用伝言板」の使用法について確認することができます。

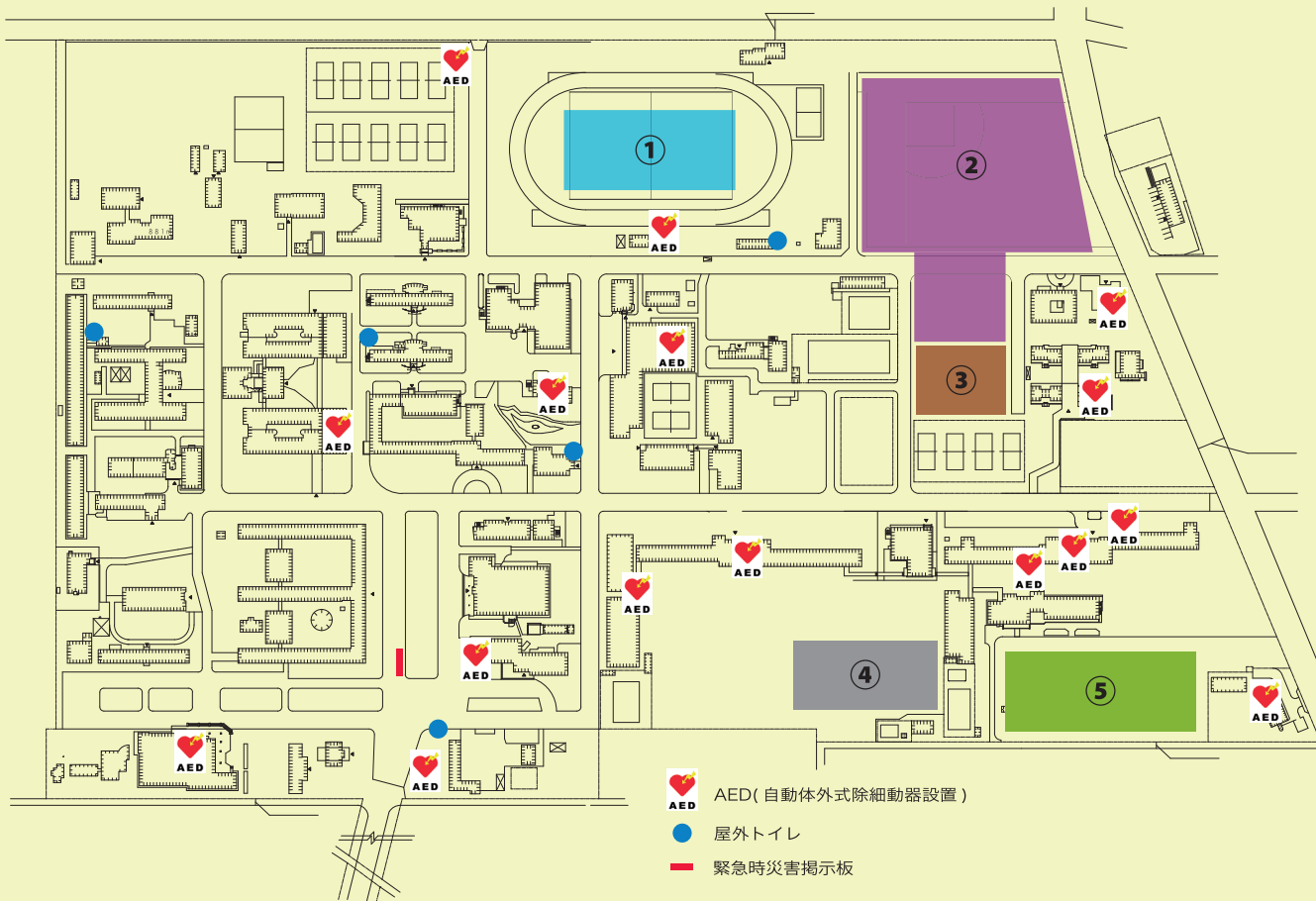
- NTT ドコモ : <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
- au : <https://dengon.ezweb.ne.jp/>
- ソフトバンク : <http://dengon.softbank.ne.jp/>

※災害時のみ利用可能

⑩本人情報

氏名
学生番号
住所
電話番号(自宅)
生年月日
血液型 型
持病・アレルギー
服用薬
自宅以外の緊急連絡先
氏名・続柄
住所
電話番号

⑥避難場所マップ



① 学生・教職員・学芸の森保育園

② 小金井市からの避難住民・国分寺市からの避難住民・小平市からの避難住民

③ 附属幼稚園小金井園舎

④ 附属小金井中学校

⑤ 附属小金井小学校

⑧帰宅の判断

- 災害対策本部の指示があるまでは、学内の避難場所で待機して下さい。
- 余震等が収まり、状況が安定した後に、災害対策本部から帰宅の指示があった場合には、以下の事項を踏まえて、自分自身で判断し、帰宅するかどうかを決めて下さい。

- ・交通機関の運行状況、停電の有無、その他周辺地域に関する災害情報について、テレビ、ラジオ、信頼できるニュースサイト等で正確な情報を得てから、帰宅するかどうかを判断する。
- ・災害時に徒歩で帰宅できる目安としては、道路上の混雑の状況によるが、10km未満は帰宅可能、10km以上20km未満は状況次第、20km以上は帰宅困難とされている。
- ・日没後の行動は危険。日没の時間も考慮して、判断する。
- ・状況が流動的で安全が確保できない場合は、無理に帰宅しない。

○帰宅できない場合

- ・学内又はその周辺にいる場合は、大学が用意する学内避難所（体育館等）で待機して下さい。
- ・学外にいる場合は、最寄りの市区町村等が開設する避難所へ避難して下さい。

⑨大学に安否報告

状況が落ち着いたら、大学へ安否を報告して下さい。

<安否メールの送信>

- ・送信先：g-anpi@u-gakugei.ac.jp
- ・表題：「学芸大安否報告（学生番号・氏名）」
- ・記載事項：1. 学生番号 2. 氏名
- 3. 本人被災の状況
 - a 無事 b 軽傷 c 重傷（自主避難可）
 - d 重傷（要救助：現在地をお知らせ下さい）
- 4. 所在情報
 - ア 学内 イ 自宅 ウ 外出中 エ 帰省・旅行中（学外及び自宅外の場合は、現在地又は避難予定場所をお知らせ下さい）
- 5. その他、情報等（大学の友人情報が分かれば記載して下さい）

※自宅等においても、大学からメールやHP等を通じて指示があったら、できるだけ速やかに安否メールを送信して下さい。ただし、大学が震度6弱以上の地震に見舞われた場合は、自宅等においても、大学からの指示を待たず、安否メールを送信して下さい。

※メールが使用できない場合は、葉書による報告も可能です。（安否メールと同じ記載事項を記入して下さい）

<宛先>
〒184-8501
東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学 学生安否確認担当